

# 市

## を語る 1

### 上越市（新潟県）

上越市長 **中川幹太**

# わが

## 暮らしやすく、 希望あふれるまち 上越

上越市は、新潟県の南西部に位置し、日本海側の交通の結節点として、北陸新幹線や高速道路、航路などを通じて、世界文化遺産の登録が期待される佐渡島など県内各地や長野県、北陸各県と結ばれています。

46年の高田市と直江津市の対等合併を経て、平成17年1月、当時全国最多の14市町村の合併により、現在の上越市になりました。

### 雪国の恵みと知恵

日本海と雄大な山々に囲まれた自然豊かな本市は、日本有数の豪雪地帯であり、江戸時代には、ま

豊富な雪解け水が作り出す「コシヒカリ」などの米や酒、雪の寒さと多湿な気候が生み出す発酵食品、天然の冷蔵庫・雪室の中で食味を増した雪室食品などが本市の特産品となっています。

また、雪国の知恵と共助の精神を象徴する、高田地区の「雁木」の総延長は約12kmで、日本一の長さとなっており、雁木や町家、歴史的建物を活用した「城下町高田の再生」の取り組みは、令和4年度の国土交通省「まちづくりアワード」の特別賞を受賞しています。

「生きる力」を生かした  
まちづくり

中山間地域が市域の約7割を占めている本市は、全国各地と同様、人口減少や少子高齢化、過疎化の進行に直面しています。一方で、目まぐるしいスピードで複雑に変化していく社会経済環境への対応も待ったなしとなっています。

こうした中、さまざまな困難に柔軟に対応できるまちの力や、その基礎となる食料やエネルギー等の自給力を備えるなど、どのような状況下においても生き抜いていく力を有する「まち」をつくり、そのまちを支える「ひと」を育むことを基本理念とする「第7次総合計画」を、令和4年度に策定しました。策定に当たっては、コロナ禍ではありましたが、さまざまな工夫を凝らして市民の皆さまとの対話の機会を設けながら、将来のまちのありたい姿を展望し、未来志向のまちづくりに向けた議論を経て、取りまとめることができました。



上杉謙信の遺徳をたたえる「謙信公祭」。2025年に第100回を迎える

古くは、奈良時代に越後国の国府が置かれ、戦国時代には、春日山城を居城とした戦国の名将・上杉謙信公のお膝元として栄えました。そして、江戸時代には徳川家康の六男・松平忠輝公を藩主とした高田城が築かれるなど、越後の都として、政治・経済・文化の中心として発展を遂げてきました。

近代に入り、昭和

こうした雪国の暮らしにおいて、培われてきた歴史や文化、育まれてきた支え合いや思いやりの精神性、先人の知恵と工夫により発展してきた産業などは、本市ならではの地域資源として、今日まで脈々と受け継がれてきました。

とりわけ、食では、清廉で



町家や石畳が続く城下町高田の「雁木」のまちなみ

## まちづくりをリードするプロジェクト

本市では現在、令和5年度からスタートした第7次総合計画に基づき、政策を総動員して人口減少対策に取り組むとともに、本市が抱える課題への対応を力強く進めていくため、分野横断的かつ重点的に取り組む政策分野として、「地域自治推進」「地域交通」「子育て」「健康」「防災」「農林水産」「脱炭素社会」「通年観光」の八つを定め、政策プロジェクトとして位置付けた上で、部局を超えた連携を図りながら、関連施策を推進しています。



市長と市議会議長が共同で「ゼロカーボンシティ」を表明



首都圏IT企業等によるサテライトオフィスの開設が進展

型の観光の現状を、年間を通して来訪者が訪れるまちへと転換していくことを目指し、上杉謙信公の居城があった春日山地区、港町の直江津地区、雁木町家が連なる高田地区の3地区を重点的に整備していくことで、交流人口の拡大

トワークの確立を図るため、人口減少が進む地域において、予約に応じて自由に運行するコミュニティバスの導入を推進しています。

また、「脱炭素社会」プロジェクトでは、公共施設や新築住宅への太陽光発電設備の導入、庁用自動車の電動車への移行を始め、昨年には、市議会と共同で「ゼロカーボンシティ」を表明したほか、行政と産業界が脱炭素に関する情報共有を図り、互いに連携・協力しながら取り組みを推進するため、地元の商工会議所や市内の大手エネルギー事業者など19団体で構成する「上越市脱炭素経済ネットワーク」を立ち上げました。

さらに、「通年観光」プロジェクトは、イベントを中心とした季節

や経済の循環を図っていくこととされています。これらのほか、新たな価値を創り出す産業基盤を確立するため、IT企業を中心とした企業誘致に積極的に取り組んでおり、ここ数年で、交通の利便性の高い北陸新幹線上越妙高駅周辺をはじめ、市街地の空き家や空き店舗などに、新たに15社のサテライトオフィス

などが進出しています。今後も、さまざまな課題を克服するとともに、次代を見据えた新たな政策に果敢に挑み、本市の将来都市像である「暮らしやすく、希望あふれるまち」の実現に向けて、市民の皆さまと手を携えながら、市民の暮らしとまちの成長を支える確かな基盤づくりを進めてまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 973・89km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 18万2911人
- ◆ 世帯数 7万7508世帯

〔将来都市像〕暮らしやすく、希望あふれるまち 上越

〔まちの特徴〕海・山・大地など豊かな自然と、城下町の歴史・文化が息づく生活利便都市

〔市町村合併〕平成17年1月1日、上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名



上越市長  
中川幹太



立町の1市6町7村が合併  
〔特産品〕米・酒・みそ・ワインなど発酵食品、「メイド・イン・上越」認証品  
〔観光〕春日山城跡、高田城址公園、城下町高田のまちなみ、水族博物館うみがたり、海水浴場、キューピットバレイスキー場  
〔イベント〕謙信公祭、高田城址公園観桜会、同観蓮会、上越まつり、越後・謙信SAKEまつり、レルヒ祭、えちご・くびき野100kmマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



# わが

## 美しい富士山を望むまち にらさき

韮崎市は、甲府盆地を越えて南東の御坂山塊の上に日本の象徴である雄大な「富士山」を望むことができます。さらに、西に南アルプス、東に奥秩父山系前衛の山々がそびえ、標高2800mを超える高山や緑豊かな山々が韮崎市を訪れる皆さんを出迎えてくれます。



韮崎産ワイン



甘利山から望む富士山

世界文化遺産となつて、さらに注目される「富士山」ですが、本市では朝な夕なに親しまれてきた「美しい富士山を望む絶景の地」として後世に伝えるため、江戸時代の日本

画を代表する浮世絵師で知られる葛飾北斎の「富嶽三十六景」になぞらえ「にらさき富嶽三十六景」を選定し、世界に発信するとともに、この地を訪れる人々にその美しさをお伝えしたいと市内36のビュースポットを選びました。また、茅ヶ岳山麓のなだらかな丘陵地帯に広がる穂坂町と上ノ山地区は、日照時間が長く水はけの

良い土壌で、糖度の高い果実が育ち、ブドウなどの果樹栽培が盛んな地域です。平成26年に「武田の里にらさきワイン特区」の承認を受けていることから、小規模ワイナリーが参入しやすく、ワインによる地域の活性化が期待されています。現在、市内には五つのワイナリーがあり、おのおのが個性あるワイン造りを通じ、韮崎産ワインの魅力を発信しています。

### 「家でも学校でもない 第3の居場所」 Miacis（ミアキス）

努力する若者を支援する本市では、「中高生にとつての家でも学校でもない第3の居場所をつくる」と、市と地域の大人たちが共に立ち上がり、平成28年10月に青少年育成プラザMiacisを市民交



第3の居場所Miacis

流センター内に開設しました。「あなたは何に進化する？」のテーマの下、Miacisでは中高生にさまざまな進化のきっかけづくりをしています。学校や学年の枠を超えた同世代との交流、将来の職業選択のアドバイス、施設内外で行われるイベントへの参加などを通し、中高生は自分の新たな一面や幅広い選択肢に出合うことができます。Miacisでさまざまな経験をした子どもたちが成長してつくる地域の未来を、大人たちも楽しみにしています。また、第12回地域再生大賞にお



スポーツコミッションが開催するヤマケンカップ

いて、本市のカムバック支援事業を  
受託し、青少年育成プラザ Marcus  
を運営する NPO 法人河原部社が  
大賞の栄に輝き、その活動が高く  
評価されております。

## 葦崎市スポーツ コミッションの設立

これまで、生涯スポーツの振興  
を通じた市民の健康の増進やサッ  
カーのまちプロジェクト事業によ  
る、スポーツを通じた人づくり、  
まちづくりを推進してまいりまし  
た。しかし、急速な人口減少と少  
子高齢化が進むなか、地域スポー  
ツは、担い手不足やライフスタイ  
ルの多様化により下降気味となっ  
ております。

このため、本市  
では、関係団体が  
集結し、市民自ら  
スポーツする機会  
を拡充するととも  
に、スポーツイベ  
ントなどを通じた  
交流人口の拡大を  
図りながら幅広い  
年代の『ウェルネ  
スの実現』につな  
げていく組織とし

て令和4年に「葦崎市スポーツコ  
ミッション」を設立しました。ス  
ポーツコミッションを設立するこ  
とで、本市が誇る優れた自然文化  
といった観光資源を活用し、ス  
ポーツと観光を結び付け、市外か  
ら誘客を行うスポーツツーリズム  
を本市出身のプロトレイルラン  
ナー山本健一氏の協力を得ながら  
推進しております。

また、地域スポーツのさらなる  
振興を図りながら、現在建設に著  
手している市営新体育館をはじめ  
とするスポーツ施設を最大限に活  
用し、市民がスポーツを「する」  
「みる」「ささえる」機会を充実さ  
せ、スポーツ振興と健康都市づく  
りを進めております。

## 「若い世代が住みたくなる まち」を目指して

本市では、赤ちゃんや妊産婦に  
対する『やさしい活動宣言』など  
を行う「ベビーファースト運動」  
を実施し、子どもを産み育てたく  
なる社会を実現するために、企  
業・自治体・個人が妊産婦をはじ  
め、子育て世代が過ごしやすい環  
境を醸成することを目指しており  
ます。

さらに、こども家庭庁が掲げる  
「こどもまんなか社会」の趣旨に  
賛同し、こどもまんなかの取り組  
みの第一弾として、こども家庭庁  
参与の清原慶子氏を講師にお迎え  
し、「こどもまんなか応援セミ  
ナー」を開催し、「こどもまんなか  
応援サポーター」として活動する  
ことを宣言いたしました。

また、近年、若い世代が中心と  
なつて空き店舗を活用した出店が  
進み、かつてのにぎわいを取り戻

## プロフィール

- ◆ 面積 143.69 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万8103人
- ◆ 世帯数 1万2822世帯

〔将来都市像〕すべての人が輝き 幸  
せを創造するふるさと ならさき  
くチーム葦崎で 活力ある まちづく  
り

〔まちの特徴〕四季折々の大自然と甲  
斐武田氏の歴史に彩られた風光明媚な  
まち



葦崎市長  
内藤久夫



〔特産品〕モモ、ブドウ、米、葦崎産  
ワイン、バレルサウナ、キャンピング  
カー、甲州小梅、ほうとう

〔観光〕葦崎大村美術館、わに塚のサ  
クラ、鳳凰三山、甘利山、新府城跡

〔イベント〕深田祭、サンライズヒル  
穂坂・ヤマケンカップ、武田の里にら  
さき花火大会、武田の里フェスタ葦崎

しつつあります。本市といたしま  
しても、チャレンジする若者たち  
の起業を支援するための補助金制  
度や来訪者の増加に伴い駐車場の  
不足を解決するためのモデル事業  
を実施しております。

こどもや子育て世代に耳を傾  
けながら市民や企業の皆さまと  
「チーム葦崎」で、子育て支援施策  
の充実を図り、「若い世代が住み  
たくなるまち」を目指してまいり  
ます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、  
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



# わが

## 「職住近接」による 持続可能なまちづくり

湖西市は、静岡県の最西端に位置し、浜名湖と遠州灘、湖西連峰に囲まれ、変化に富んだ地形と豊かな動植物が生息する優れた自然環境に恵まれているまちです。日本で唯一現存する、国指定特別史跡の新居関所は、慶長5

（1600）年に徳川家康により創設され、東海道の宿場町の町並みや地割りなど江戸時代の面影が現在の景観に息づいていきます。古くから交通・輸送の要衝として栄え、近代日本の発明王・トヨタグループの創始者である豊田佐吉翁を輩出し、近年は自動車関連産業を中心とする工業・モノづくりのまちとして発展しています。

### ライフステージに応じた支援

本市は、政令指定都市の浜松市と中核市の愛知県豊橋市に囲まれ、昼間と比べて夜間人口が

1万人減少する昼夜間人口差の解消などが課題となっており



豊かな自然に囲まれた湖西市



日本で唯一現存する国指定特別史跡の関所



安心・安全な暮らしをサポート

ます。そのため、ライフステージに応じた支援の強化を重点的に行っていきます。奨学金返還支援制度を設けて、学校を卒業後に本市の企業で働いて市内に居住される方に、市と企業が折半して奨学金の返還支援を行っています。また、結婚を機に本市へ移住した新婚夫婦への10万円支給のほか、定住促進奨励金として住居を本市内に建てた場合に最大100万円を助成する支援を行い、移住定住の促進に努めています。

さらに少子化対策として、安心して子どもを産み、育てられるよう、中学高校入学時の支援など、2人以上子どもを産み、育てたくなる環境を支援していきます。また、不妊治療における保険適用外医療費の助成などに取り組みしていきます。



湖西市産のポークウインナーの給食試食会

### 土地利用の一体的推進、 カーボンニュートラルの推進

トヨタグループによるBEV（バッテリーEV）の一大生産拠点、カーボンニュートラル発信の地として「KOSAIバッテリーパーク」の整備が進められ、まちづくりの発展に欠くことができない、災害時の広域避難経路としても重要な幹線道路（通称・バッテリーロード）が令和5年9月に開通しました。さらに、新たな工場用地の確保に向けた開発可能性調査を継続して実施するなど、今後



開通した幹線道路 (通称:バッテリーロード)

も土地利用活用を一体的に推進し、新たな物流・人流・交流の軸として地域の活性化につなげていきます。自動車産業を中心とするモノづくりのまちの本市において、環境と経済の好循環による持続可能なまちづくりのため、引き続きモノづくり人材育成や産業ネットワークの推進、カーボンニュートラルへの対応は喫緊の課題で、令和5年8月には静岡県、愛知県の五つの金融機関とカーボンニュートラル推進に向けた相互協力および連携に関する協定を締結し、各金融機関と連携して、CO<sub>2</sub>排出量の見える化や省エネ設備投資への利子補給など、湖西市版ゼロカーボンシティの構築に向け、推進しています。

## 水道スマートメーターの活用・DXの推進

本市では、全国に先駆け水道事業においてスマートメーターを活用し、市民生活におけるDXに取り組んでいます。令和5年から全

国初の「時間帯別料金」の導入に向けた実証実験を進め、データ分析や効果検証などを行ってまいります。令和9年度までにスマートメーターを市内全世帯に拡大し、検針時間の短縮や漏水判定の向上、検針票の電子化、産学官が連携したビッグデータ活用によるフレイル予防など、DXを活用したさらなる市民サービスの向上、水道管の更新コストの縮減など、効率的な運営を図ってまいります。愛知県豊橋市との「水道料金収納業務等の共同化」(シェアードサービス)を令和4年度から行っており、県境を越えて水道料金収納における業務処理の統一やシステム機器などの共有は全国で初めての取り組みです。

## 持続可能な公共交通 (ライドシェアの研究)

観光地などでのインバウンド需要の回復、高齢化に伴うドライバー不足、過疎地域における通院・買い物などの「移動の足」の確保などが、全国的に大きな課題となっている中、広域的な視点で交通事業者との共存共栄を基本とし、近隣市と交通事業者を含め、

「持続可能な地域公共交通」についての勉強会を始めています。既に国でも、現行の道路運送法の柔軟な運用、免許要件の緩和など、担い手増加に向け、スピード感を持った動きが見られ、通院や買い物など地域の足としての手段・選択肢の増加による住民の利便性向上へ、引き続き広域連携して取り組んでまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 86・56km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万8079人
- ◆ 世帯数 2万5163世帯

〔将来都市像〕「ひと・自然・業(わざ)」がつながり 未来へ続く わがまちKOSA I

〔まちの特徴〕風光明媚な浜名湖、遠州灘、湖西連峰に囲まれ、ウナギ、カキなどの水産物にも恵まれた、製造業が盛んなモノづくりのまち

〔市町村合併〕平成22年3月23日、湖西市、新居町の2市町が合併



湖西市長 影山剛士



〔特産品〕うまみがたっぷりの浜名湖うなぎ、新居牡蠣「プリ丸」、飼育量が静岡県第一の豚肉、しらす

〔観光〕新居関所、本興寺、豊田佐吉記念館、湖西連峰ハイキングコース、今切体験の里 海湖館

〔イベント〕諏訪神社奉納煙火、湖西おいでん祭、湖西湖上花火大会、海湖館牡蠣小屋の焼き牡蠣体験

## 最後に

人口減少対策など、一つ一つ課題を解決しながら、地域に笑顔や活気が溢れるよう、市民生活、地域経済の支えとなる事業を展開し、引き続き「職住近接」をキーワードに、「働くまち」から「働いて暮らすまち」を推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



# わが

## 世界でもユニークな 日本産業近代化の舞台「呉」

### 呉市の概要

呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた、人口約20万人の都市です。



大和ミュージアム 1/10戦艦「大和」

古くから、朝鮮通信使・北前船などのよる大陸や日本海からの交易の地として栄え、戦前は、呉海軍工廠が置かれて世界最高水準の技術と人が集まり、戦艦「大和」や「大和」の砲などの兵器の製造、艦艇の建造や航空機の開発を担うなど、日本一、そして世界でも有数の

海軍工廠を擁するまちとして発展してきました。戦後は、こうした歴史や、海軍工廠の基盤・技術を生かしたものづくり産業、豊富な医療資源などを有する多様性に富んだ都市として発展しています。

日本産業近代化の舞台となった呉の歴史や科学技術を紹介する「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）」は、平成17年4月の開館以来、1600万人を超える方々に来館いただいています。令和6年度には開館後初の大規模リニューアルを実施し、シヨップ棟の新設や、デジタル技術の活用による展示内容の充実を図っています。

### 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興

平成30年7月豪雨によって本市

は甚大な被害を受けましたが、国、広島県をはじめとして、全国の自治体やボランティアの皆さまにご支援いただき、災害復旧工事はほぼ完了し、引き続き災害からの復興に向けて取り組んでいます。被災した天応中学校では、学校の運営が困難になったため、天応地区の児童生徒や保護者、住民の意見を踏まえ、令和5年4月に本市初の義務教育学校として天応学園が開校しました。災害時などを想定して、特別教室もある体育館棟を新設し、近接する国道から直接校舎に入ることで、避難所開設時の炊き出しを見据えてグラウンドの近くに家庭科室を配置するなど、災害の教訓が生かされています。



新たに整備した呉市立天応学園体育館棟

また、豪雨災害の記憶を継承するため、被災箇所への説明板の設置や、一時避難場所として公園・広場の整備を進めるとともに、被災状況や復興状況などがわかるウェブサイトの構築などを進めています。

### 呉市・広島大学

#### Town & Gown構想の推進

令和5年7月、呉市、国立大学法人広島大学、海上保安大学校、公益財団法人笹川平和財団は、「呉市・広島大学Town & Gown構想の推進に向けた海洋・海事の国際的拠点の形成等に関する協定」を締結しました。

この取り組みは、本市においてアジアにおける海洋・海事の国際的教育・研究・社会連携の拠点形成と地域の活性化を図るため、呉市が有する豊かな地域・行政資源と広島大学が有する教育・研究人材



Town & Gown構想 協定締結式

や知識などの資源を融合させることにより、新たな人材を呼び込み、海洋・海事に係る教育や産業、デジタルなどの分野での先進的な取り組みを行うことで、「海洋文化都市」を目指していきます。

## 観光を新たな基幹産業へ

観光に関わる全ての人と同じ目標に向かって観光振興に取り組むため、令和3年9月に「呉市観光振興計画」を策定しました。その取り組みの一環として、令和5年10月から呉市観光・地域振興CRM（顧客関係管理）アプリ「マイカレ」の運用を開始しました。データを蓄積・解析することでターゲットの明確化を図り、観光客のニーズに即した情報・商品などを提供し、地域全体で「呉ファン」の獲得を目指します。

観光を新たな基幹産



マルチメディア端末などの設置

れたことを受けて、令和5年12月に、コンビニエンスストアがない地域（島しょ部）にマルチメディア端末などを設置する実証実験を開始しました。



呉市長  
新原芳明



平成17年3月20日、呉市、音戸町、倉橋町、蒲刈町、安浦町、豊浜町、豊町の7市町が合併

〔特産品〕ミカン、レモン、トマト、カキ、オニオコゼ、タチウオ、ちりめん、やすり、川尻筆など

〔観光〕大和ミュージアム、御手洗の町並み、入船山記念館、音戸の瀬戸、安芸灘とびしま海道など

〔イベント〕呉みなと祭、くれ海上花火大会、呉海自カレー・呉グルメフェスタ、呉ご当地キャラ祭、くれ食の祭典、朝鮮通信使再現行列など

業へと成長させ、地域産業の活性化や市民生活の質の向上につなげていきます。

## スマートシティ「くれ」への取り組み

「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点の形成」を基本理念として呉駅周辺地域総合開発を進めており、その一環として自動運転車の実証実験に取り組んでいます。呉駅周辺地域を起点に、「Society 5.0」の実現に向け、スマートかつ持続可能な先進都市を目指しています。

また、民間事業者などと共に本市の課題を解決する取り組みとして「スマートチャレンジくれ」を進めています。島しょ部を含む市内にさまざまな光通信回線が整備さ

他にも、デジタルツールを活用した自治会活動のサポート、公共施設予約・貸し出しに係るスマート化、コミュニケーションロボットを使った高齢者の見守りなどの実証実験も行っています。

## 最後に

大きな時代の変化がある中で、

2030年までに本市が向かうべき方向性を定めた「第5次呉市長期総合計画」において、将来都市像として掲げている「若者、高齢者、女性、障害者、外国人など、全ての人々が住みたい、住み続けたい、行ってみたいと思う、人を惹きつける魅力的なまち」の実現に向けて取り組んでいます。

## プロフィール

- ◆ 面積 352・83 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 20万5349人
- ◆ 世帯数 10万5651世帯

〔将来都市像〕誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」〜イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる〜

〔まちの特徴〕独自技術や全国的、世界的に高いシェアを持つ企業を有する「ものづくり」のまち

〔市町村合併〕平成15年4月1日、呉市、下蒲刈町の2市町が合併、平成16年4月1日、呉市、川尻町の2市町が合併、

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。